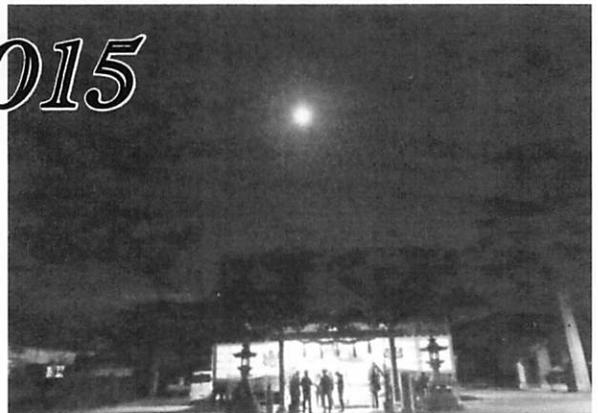




岐路に立つニッポン

地方の自立心が試される 2015



2015年1月1日午前零時過ぎ、瀬戸内海弓削島・弓削神社にて。若者が初詣に参じ、おみくじに興じていた。さて今年の運勢は？

清浄な白雪の元旦
今年の元旦には初雪が降り、わずかではありませんが積雪しました。地球温暖化が言われる中、たしかに瀬戸内海の島で積雪はあまり見られなくなり、これは四国地方でもクルマが立ち往生するほどの降雪があったり、北海道を襲った大寒気団の影響が、遠くこの四国地方にも及ぶなど、「いつも通りの冬」が、なにやら様相が変わって来ているのではないかと感じさせるものがありました。昨年の夏場においてもあちこちで局地的な豪雨が、悲惨な災害を伴って襲ってきたことも記憶に新です。気象変動も人間の飽くことなく拡大する経済活動の結果であることは、すでに大方の人々の知るところとなっています。

心ざわめく陰謀論
3年余り前の東北大地震以後、自然災害に関しメディアの世界では地震も気象も伝染病すらも人為的に引き起こされていると陰謀論の話題に事欠きません。事の真偽はいずれ明確になるのかもしれませんが、ならないのかもしれないが、そういう言説に心が動いてしまうのも事実です。
動いてしまう心理の奥底を覗いてみれば、その正体は社会に対する不安ではないか。国の外交面では領土をめぐる近隣諸国との摩擦。それに引きずられる格好で現政権により成立した秘密保護法や、憲法に定める手続き無視の閣議決定による集団的自衛権容認。その遠因になっている先の大戦の始末の付け方。あまつさえ当の日本国憲法が現実的には、国の最高法規とは言えないのではないかと疑問。それらは、世間で言うところの本音と建て前の使い分けのように、国家間にあっても本音と建て前の使い分けがあり、都合の悪い部分は国民に隠されてきた経緯があります。国家間の機密外交文書が時効により公開される都度、そうした事実が、残念ながら我が国発ではなく、アメリカ発の情報として我々に少しずつ明らかになっていきます。

嘘からまこととは生まれない
嘘はいずればれぬものなのに、嘘も方便というまやかさに我々国民が寛大でありすぎたのかもしれない。戦後70年。民主主義は日本国憲法をよりどころに築き上げられてきたと信じてきた我々の世代には、実は悪意ある政府によって70年騙され続けてきたのではないかと疑問に付きまといわれた昨年でした。日米密約の存在。密約とは言

え政府間の約束であるゆえに合法。それらが主権者である国民の目から隠されたまま、憲法に照らせば独立国であるはずの我が国が、じつは占領時の連合国軍が在日米軍と名を変え、いまだ合法的に占領体制が継続されている実態。合法の根拠が密約

だった。米軍の治外法権を認められた日米地位協定だった。その日米地位協定に関する協議が、日米合同委員会という外務官僚と米軍との閉じた組織での合作の上に成り立っている事実。こういうことは、大多数の国民の関心の外にあったのではないでしょう。

政治のまやかさに流されぬ情報を

まず事実を知ることが大軍
我が国の領空が殆ど在日米軍の管理下にあり、民間航空路は米軍の管理区域外の範囲での運航を余儀なくされている事実。話題のオスプレイの低空飛行訓練にしても、米軍が必要とするば列島どこでも可能であるとすれば、日米地位協定をみれば、我が国はとも独立国とは言えないのではいかと解せず、国として自衛権論議など出来ないのではないか。

いのか。なぜ大事故を起こした原発がありながら原発再稼働に突き進んでゆくのか。・・・情報を知れば知るほど国の在り方が問われる展開となつてしまっています。
子どもを巡る問題、労働環境を巡る問題、社会福祉を巡る問題など皆、我々末端自治体に住む者が独立自尊の道を歩めないのは、根源的な問題にメスを入れずにしので行こうという、安易な国民の姿勢に原因があるように思えてなりません。
基本的な人権が削除される？
結局、敗戦後わが国民が70

なぜ沖縄の民意が否と言っている基地移転を強行するのか。
なぜ対米従属が国是となつていいのか。なぜ年間1800億円超もの米軍に対する思いやり予算が組まれるのか。なぜ政府によって国民の安全が優先されないのか。

出よつ会
地区のお年寄り達の交流会です。毎月第2火曜はやまびき、第3火曜は弓削土生集会所で開催しています。1月は13日と20日、2月は10日と17日、問い合わせ72・9188

青木喜代子
一月も中旬。よいお年をお迎えですか。私は一日午前九時に三件の配達を済ませ、恒例の食事会の支度にかかった。
一日早々に配達か・・・でもこんな元旦、あと何回迎えられるか。元氣だから出来る事と反省しつつ海老の皮をむいていた。すると郵便バイクの音。雪の舞う中、この人も働いているんだ。
年賀状の束をありがたくいただき、早速、年に一度の安否確認作業に突入。お年玉付葉書を見て息子が「ほら、今年の羊はマフラーしているよ」確かに。「十二年前はマフラーが間に合わず、毛糸玉がころがっていたよ」よく見ると、帽子も手袋も出来ている。十二年がかりのユーモアに親子で笑った。
十二月に入ると年賀状の作成にかかる。夫は木版と刷り担当。私は少々ゆがみをもつとも



海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎を顕彰する会 (参加自由)
 (毎月25日13時～。生名中央公民館2Fで開催)
 (9)

日本海員組合(現・全日本海員組合の前身)をつくった濱田國太郎は、我が町の旧・生名村の出身です。

一昨年11月25日に発足した濱田國太郎顕彰準備会は、満1周年を機に任意団体「濱田國太郎を顕彰する会」として生まれ変わりました。活動趣旨は元々の趣意書と大きくはかわりませんが、國太郎一人に光を当ててではなく、海事関係の仕事を通じて我が国の近代化に尽力したこの町の先輩達を顕彰し、その中の一一人として國太郎を捉えることとし、活動目的を次のように申し合わせました。



※瀬戸内海生名島の生名港橋から望む「日本海員組合」をつくった濱田國太郎の銅像があった台座

第2条 目的：日本海員組合の創設に功績のあった上島町生名島出身の濱田國太郎の顕彰活動を通じ、我が国および地域の近代化に尽くした地域出身の人々にふたたび光をあて、世代を超えて共有し、活動を通じ、合併後の町における町民の連帯感を高めることを目的とする。

2 前項の目的を達成するため荒廃しつつある濱田國太郎顕彰碑の修復および逸失している銅像ほか案内板等の設置、歴史の掘り起こし、新たな名所の創設等を目指す。(申し合わせ事項抜粋)

この活動の目指すところのもう一つは、生名橋開通を機に地域間交流を盛んにする、ということがあります。毎月1回の月例会はそのまま継続。学習会やボランティア活動なども計画します。

ある人物を顕彰すると言っても、その事績が町民の皆様に共有されねば、共感をいただくことは困難です。その点でも、國太郎のことはもっともっと知られてよいですし、そのためのお手伝いもさせていただきたいと思っています。

過去1年の話し合いを通じて今年実行することになった事業は、案内板を製作、設置は会員のボランティアでということが始動しています。色々な方々にご協力をお願いすることになるとおもいますが、長い道のりを一緒に歩いてゆけたらと念じております。どうかよろしく願いいたします。

平成26年は上島町議会にあっても様々なことがありました。議会は申すまでもなく町民の付託を受けて行政執行部のチェックをするのが本義です。本義を果たす上で法にもとづく議決案件の議決を行います。議決も法にもとづく多数決原理です。いわゆる議決機関である議会は、その延長線上に、議会自身が議決案件を提案する権利も付与されています。俗に言うところの議員立法です。では議員立法で何でも出来るかといえ、それは言えません。行政執行権をもつ理事者と議会は、たとえられるように車の両輪。互いの守備範囲を犯すような議員立法は、越権行為となるおそれがあり奨励されるはずがありません。議会の自浄力を高める事案(議事条例など)、議会の存立に関する事案(選挙区条例、定数条例、会議規則など)といった、議会自身が自らを律し、よく住民の付託に応えられるためにする事案は当然のこととして議会の手に委ねられるべきですが、例えば住民の福祉に関する事案は、予算措置の必要な事案は、

議員活動録

(24) 議会議員 平山和昭

問われている議会としての議員ひとりひとりの練度も課題

住民は理事者と理事者を
 昨年は何件かの議案否決や修正議決がありました。そのことに関し、理事者、なかなか町長は、事ある毎に議会批判をされてきました。自らの信念にもとづき上程した議案が、否決されたり修正されたりするのは、耐え難い気持ちがあるのではないかと推察はしますが、否決や修正には理由があったので

やはり執行部との綿密な協議の上でなければ実行はむづかしいでしょう。しかしながら住民の希望が強くて、条例が無いため理事者が取り組まない事案があれば、議員立法を視野に改善を図ってゆくというのは、あつて然るべきだと考えます。地方議会、殊に末端自治体における議員立法は、まだまだその熟練度が高いとは言えません。議決と議員立法、この二つを肅々と実行できるような議会になつて初めて、車の両輪といえるのではないかと考えます。

合併3期目後半の議会においては、正・副議長も交代し、その新たに定時議員協議会開催、委員会活動の活性化、住民懇談会開催にも取り組むことになってます。過去長い間「何でも賛成団」と住民から揶揄されてきた町議会が、文字通り「是々非々で議決する議会」として、やつと歩み始めたのが、合併3期目の町議会であることを、合併3期目の皆様方には是非御理解いただきたいと願います。なお12月議会での問題点に関しては次号でご報告いたします。

理由説明は賛成討論や反対討論で為されています。したがっていったん議決されたことに關して肅々と受け入れる度量がないと、その後の議会との関係性、あるいは政策の改善にもよい結果がでるとは思えません。一方議会側も、住民との懇談会の開催などを通じ、住民には議決結果に關する説明をする必要があると考えます。

あるべき姿の議会へ

おたよりから

十二月号を讀んで

本田義幾 (道鏡を守る会 元小学校教師・宮城県)



●1969年アメリカン・ニュースレターの製作。実在の銀行強盗ブッチ・キャンディとサンダンス・キッドの物語。ラストシーンは映画史に残る。主演：ポール・ニューマン&ロバート・レッドフォード。

讀んでみませんか

本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」¥1500 前泊博堂・創元社

「法治国家崩壊」 ¥1500 砂川龍典と日米に津役交渉 吉田敏浩ほか共著・創元社

かつて内子町石畳の弓削神社へむかうとき麓の石畳小学校に寄つてみました。校舎のかたすみに一輪車が何台も立てかけられていました。その時は小さい学校でチーム競技には不向きで、個人競技に重点をおいていると感じました。それ以来小さな学校はそんな傾向(ケン玉も)に走っています。こちらは小さな中学校はチーム競技は2/3にしぼつて部活をやっています。今や小学校も統合がすすみ、小さな学校はなくなりまして、でも子どもは減少ですから課題はかわりません。学校に何を期待するか、過剰な期待はしていないかも検討

学校の一つの弱点をもとに追い詰めるのではなく、学校を育てる社会を目指すべきです。その点で弓削島のこれまでの歩みは、一つの典型になるのではないのでしょうか。